

『唐話纂要』の言葉
——岡島冠山の伝えた「唐話」その1——

奥村佳代子

要旨

在日本的江戸時期・曾經出現過一次學習唐話的熱潮。岡島冠山編寫的《唐話纂要》是在江戸（現在的東京）出版的最早跟唐話有關係的書。唐話的實際情況是怎樣的呢？本文試將唐話分為以下三類：

- 1 唐通事代代相傳的唐話
- 2 專門書等出版物中的唐話
- 3 漢學學者和文人所寫的文章中的唐話

冠山的《唐話纂要》屬於第2類。為了今後的研究・本文對《唐話纂要》進行了分類・整理。

『唐話纂要』は、長崎での通事経験を持つ岡島冠山の編著であり、1716年に江戸で出版された。出版当初は五巻五冊だった。巻一には二字及び三字、巻二には四字、巻三には五字及び六字に区切った語句と慣用句、巻四には対話形式の遣り取り（長短話）、巻五には項目別に名称が収録された。2年後、新たに読み物二編が加えられ、六巻六冊として出版された。

『唐話纂要』は江戸時代に初めて出版された「唐話」の入門書であるとされる。

では、「唐話」とは、具体的にどのような言葉だったのか。「唐話」に関係する資料はいくらか残されているが、一部分の紹介に止まっているようである。

「唐話」を考える場合、3種類の「唐話」に分けたいと思う。

1. 唐通事によって継承されていった言葉
2. 唐話学者により紹介された言葉
3. 唐通事以外の知識人による作文

現時点では、この3つをひっくるめて単に「唐話」と呼び表す。これら3つが全く様相を異にしているか、あるいはどの程度類似しているかは、今後1つ1つの書物の言葉を分解してゆくことによって、明らかにしてゆきたい。

『唐話纂要』は、出版されたことによって、「唐話」が初めて公に紹介されたことになるので、2のトップバッターとして位置付けることができるだろう。岡島冠山には、他に『唐話使用』『唐訳便覧』などの編著書があり、『唐話纂要』一冊の言葉だけを取り上げて、「唐話」全般について述べることはもとより、岡島冠山の伝えた「唐話」について述べるのは無理である。

ここでは、『唐話纂要』の言葉を、『中国語歴史文法』『中国語史通考』を基準とし、品詞分類して提示し、全体を鳥瞰したい。個々の語句については、改めて取り上げたいと思う。

なお、本稿はすべて『唐話辞書類集』第六卷所収の『唐話纂要』に基づく。用例を挙げる場合は基本的に各1例ずつ挙げ、例えば第一卷二葉の表からの引用の場合は、省略して(一2表)のように、用例の後に示した。また、巻六のみに見られる用例は()で示した。カタカナ及びカタカナ交じり文は原文に付けられた訳の引用である。また、*印は気付いた点をメモしたものである。

1 名詞

・接頭辞 阿 老 令 家 尊 大 小

【阿】前日從街上走過不意撞着你的阿兄(四19表)

・接尾辞 子 兒 頭 家 生 來 上 下 下 裡 裡 邊 首

【兒】唱曲兒(一22表)

【來】夜來酒喫得太彡(四12裏)

場所を表す接尾辞は以下のとおりである。

【裡】自家屋裡去睡(三8裏)

【邊】傍邊(一4表)

【首】裏首(一4表)

【頭】裏頭(一4表)

【上】貼在壁子上好(三8表)

【下】心下不平(二10表)

【下裡】四下裡搜遍了(三10裏)

2 代詞

・人称代詞

一人称 単数 我(吾) (俺) 複数 我們 你我

二人称 単数 你 爾(汝) 複数 你們 你每 你等(爾等)

三人称 単数 他(彼) 複数 他們 他每

疑問 誰 阿誰 誰人(誰家) 那個 甚人 何人 什麼人

一人称単数は、二字話、三字話、四字話、五字話、六字話、長短話では「我」が用いられている。巻六の会話文では「吾」と「俺」が用いられている。

【吾】吾有心腹事(六5表)

【俺】俺乃長崎人氏(六2裏)

二人称単数は「你」がもっとも多く使われ、「爾」は巻四の二箇所で見られている。巻六では、「你」とともに「汝」が用いられている。

【備】我聽說備近來學業大進而詩也做得好文也做得妙備尚青年怎恁地大奇（四6裏）

【汝】我特來煩汝也（六1裏）

三人称単数は、「他」の他に、巻六でのみ「彼」が用いられている。

【彼】彼在長崎時濟人貧困（六21裏）

複数形は、「我」「你」「他」に「們」「每」「等」が付いた形以外に次のようなものがある。

【我們】決不似我們後生時節爲人（四17裏）

【你我】且喜你我一般無事（四17表）

【你們】你們（一9裏）

【你每】你每不可偷懶（三2表）

【你等】你等休要撒撥（三2表）

【備等】備等無用恐（六22表）*巻六のみ。

【他們】他們都是好漢（三7表）

【他每】他每沒有牽牢（三6裏）

（自称） 自 自家

（統稱） 大家 衆皆 衆人

・指示代詞

	近称	遠称	疑問
人物・事物	這 此 是 (之) (斯) 其	那 其	那 什麼 甚 何
場所	這 個裡 此 此間	那 (彼)	那 何 (伊處)
時間	這 此 此時	那	幾時 幾何

近称

人物、事物ともに、「這」が、もっとも良く使われている。「此」は、「因此」「故此」「如此」のように用いられている。巻六では「這」は用いられず、「此」が用いられている。「之」「斯」も巻六でのみ用いられている。

【這】這都是先生屋裡去請教的哩（四2表）

【這個】先生原來有見識的怎見不到這個田地哉（四19表）

【這些】這些後生（四17裏）

【此】孫八在人叢中視此少年（六2表）

【是】是三隻船（六20裏）

【是個】雖則是個（四14表）

【之】救之（六1裏）

【斯】若斯（六20表）

場所を示す用例は以下のとおりである。

【這裡】這裡坐（一14裏）

【這廂】這廂坐 (一 17 裏)

【個裡】個裡來 (一 18 表)

【此】過船到此 (二 3 裏)

【此間】此間響馬出沒 (三 5 表)

【那裡】那裡坐 (一 14 裏)

【那廂】那廂坐 (一 17 裏)

【那首】先生若有經我那首則順便到寒舍見家父也好 (四 11 裏)

【彼】足下往彼 (六 7 表) *卷六のみ。

【伊處】尊寓伊處 (六 2 裏) *卷六のみ。

3 数量詞

・不定数

数詞を二個用いるもの

【兩三】明日約兩三朋友同去游船 (四 12 裏)

【三五】明日我家請三五知心宴飲 (四 8 表)

数詞・助数詞を用いるもの

【些】有些閑空 (二 1 裏)

* 「ヒマ」という意味の語は、「閑空」の他に「空夫」が用いられているが、「工夫」はない。

【些個】有些個冤屈 (三 6 裏)

【些子】未曾有些子煩惱 (四 15 表)

【好些】好些日子喫素 (三 7 裏)

【點】沒點志氣 (二 11 裏)

【半】竟無半點閑空 (四 7 裏)

【数】屯兵數十萬 (三 9 裏)

【左側】約時二更左側 (六 1 表) *卷六のみ。

【來】海面上打翻了十來隻商船 (四 14 表)

* 「來」と「准准」とが同時に用いられる例もある。

准准二十年來流落在江湖上 (四 15 裏) 正シク二十年バカリ他国ニオチブレテ

【幾】你會患了時病而臥了幾日 (四 19 裏)

【幾多】有幾多僧衆 (三 5 裏)

【許多】有許多強盜 (三 5 表)

【多少】近來有少少武夫弓馬熟閑兵法精通更兼打拳使脚等事亦都點撥其端正 (四 3 表)

【若干】花費若干錢鈔 (三 4 表)

【少許】每有少許錢鈔則沽酒邀客 (六 1 表)

【一夥】有一夥歹人（三5表）

【一會】講了一會話（四19裏）

・序数

【第】所以第二日宿酒不醒（四12裏）

・話者の決意を示す「個」

【個】決個勝負（二13裏）

4 形容詞

・重複形式

AA型 相貌堂堂（二15裏） 威風凜凜（二15裏）

快快去（一14裏） 慢慢去（一14裏）など

ABB型 黑洞洞地（二18表） 黑暗暗地（二18表）

AABB型 呢呢喃喃說什麼話（四5裏）

・形容詞+程度の甚だしさを示す言葉

【～得緊】涼得緊（一23表）

【～得狠】涼得狠（一23表）

【～不過】眼熱不過（二7裏）

5 動詞

・接頭辞

【打】打掃（一12裏）

・接尾辞

【頭】興頭（一1表）

【子】耍子（一1裏）

【見】初始聽見這話（三10表）

【乎】其中一進屋在乎西洞院者五七年前忽被妖怪占棲而人不可住焉（六6裏）*卷六のみ。

・重ね型 估估看（一23裏） 面試一試（二18裏） 試做一做（二18裏）

・同動詞

（一致）是 （不一致）不是

「是」を省略したものもある。

【一】必定假的（二20裏） 真男中美人也（六2表）

*助詞「者」を用いて主語を示す用例もある。

不意遇了暴風送掉了性命者委實沒造化 オモハス暴風ニアツテ命ヲウシナフコト実ニ

無仕合也（四14裏）

(類似)

【如】酒量如海 (二5表)

【不似】而今の後生家果然個個老成決不似我們後生時節爲人 (四17裏)

【如～似～】如手中之寶似掌上之珍 (六4裏)

【如同】月明與燈光燦然相照如同白日 (六2表)

(認定)

【爲】不足爲奇 (二15表)

・補動詞

(可能)

【能】不違時勢而自能安樂以過日 (四15表)

【會】會說話 (一15表)

【會得】會得画画 (二6表)

【可】只可聽命不可勉強便了 (四14裏)

【可以】尚可以讀 (二8裏)

【煩】今朝覺得有些不耐煩 (四12裏)

* 「耐」は「昨今是更覺耐煩些 (四19裏)」のように「耐煩」の形で用いられ、動詞の前に用いられる例はない。補動詞というよりは動詞として用いられている。

(不可能)

【不能】不能上手 (二8表)

【不可】不可盡言 (二14裏)

(義務・当然)

【應】應有善報 (二20表)

【因該】此般輕易事体因該早早明白 (四16表) * 「應該」を「因該」と表記したものか。

【必當】明日萬一有雨而寬日則必當奉陪 (四13表)

【即當】那時即當躬行拜謝 (四19裏)

(禁止)

【不要】不要嫖賭 (二5裏)

【休要】休要打鄉談 (三10裏)

【不可】不可插口 (二2表)

禁止表現には「休」「莫」「勿」も用いられる。また、「不許」「禁」も用いられる。

(必要)

【須】今日須在這裡喫兩盃要要便了 (四17表)

【必須】必須快快去着 (三1裏)

【要】各人都要報名 (三10裏)

【須要】 須要講官話（三 10 裏）

【必要】 必要記號（二 16 裏）

（不必要）

【不消】 不消去說（二 2 表）

「不必」も「～するに及ばない」の意味で用いられている。

（意欲・願望）

【肯】 肯來也沒憑據（三 10 裏）

【敢】 敢特設村酒奉扳（四 5 表）

【要】 我要打投子（三 9 表）

【欲】 我自無嘴臉見人意欲到京師去隱在東山之下以終天年（四 15 裏）

【願】 從今以後願承雅教（四 3 裏）

【情願】 情願投降（二 14 裏）

【待要】 待要睡覺（二 12 表）

【將要】 將要出門（二 12 表）

（拒否・消極）

【不肯】 不肯容納（二 12 裏）

【不敢】 不敢抵賴（二 9 裏）

（難易・適否）

【難】 連日大雨路上稀爛極難奔走（四 17 表）

【容易】 不容易成就（三 3 表）

【好】 好咲（一 8 裏）

【可】 可咲（一 8 裏）

・複合動詞

【動詞+自動詞】 勸倒那些客人（四 8 表）

【動詞+形容詞】 怎恁地來遲（三 1 裏）

・助動詞

（趨向）

【起來】 擡起頭來看（三 7 裏） 咲將起來（二 4 裏）（開始を表す）

【出】 露出破綻（二 13 表）

【出來】 你若肯受托我便說出來（四 11 裏）

【上】 穿上衣服（二 6 裏）

【下】 留下兇刀走了（三 7 裏）

【下來】 什麼東西價錢都賤下來哩（四 13 裏）

【下去】 丟下去（一 16 裏）

【回】撥回馬頭 (二13裏)

【回來】適纔走回來了 (三4裏)

【回去】剛纔回去了 (三4裏)

【過】躲過了 (一23裏)

【過來】除要過來用一盃寡酒 (四8裏)

【開】躲開了 (一23裏)

【開來】須要揭開來 (三8表)

【住】抱住他 (一18表)

【來】我多曾看來了 (三2表) * 「別來許久不見」 (四4表) のような例もある。

【去】方纔走去了 (三4裏)

(動態)

【着】後叉着手待人 (三7裏)

* 「着」は、上に挙げたように状態の持続を示すほか、次のような用例もある。

安排着要議事 (三4裏) 事ヲ議セント欲ス

前日從街上走過不意撞着你的阿兄遂邀他到一個去處去喫了半日酒講了一會話

前日町ヲ通り候フテフト汝ノ舍兄二行逢ヒ即チ誘引シテ去ル處二行キ半日バカリ酒

ヲ飲テ相語り (四19裏)

【了】會去了 (一21表)

【過了】見過了 (一14表)

【～來～去】走來走去 (四2表)

(可能)

【得】隱隱記得這事 (三9裏)

【不得】不知做得做不得 (四16表)

【得+動詞】那裡說得開 (三10表)

【不+動詞】摸不著性格 (三10表) 明朝恐來不企 (三1表)

【得+形容詞】還可以算得好 (三1裏)

【不+形容詞】守不牢本分 (四10裏)

(対象・場所)

【到】解到管府請賞 (三6表)

【在】揣書在懷裡 (四2表)

【於】流落京師旅宿於五條橋 (六1表) *卷六のみ。

【干】拘于小節也 (六1表)

(程度・様態)

【些】須要用心些 (三2表)

【殺】愁殺人（一20裏）

・兼語動詞（使役表現・受身表現）

（使役）

【教】教我省得虚思空想就是了（四16表）

【使】使人叫你（四17表）

【着】着人来（一18裏）

【請】請三五知心宴飲（四8表）

【令】遂令龜松契之（六5表）*卷六のみ。

【央】央他去（一17表）

【雇】雇人去（一17表）

【定】定他做（一17表）

【托】托你寫（一17表）

【煩】煩你去（一17表）

【勞】空勞先生費步（四5表）

【差】差人去（一18裏）

【勸】勸客人多喫兩盃酒（四8表）

（受身）

【喫】喫他罵（一18裏）

【被】我主公別庄被風吹倒了周圍籬笆（四13裏）

【見】那豪富人家子弟們便請處官在家裡見教（四2表）

*「書く」という意味の動詞には「寫」が用いられるが、一箇所だけ「書」が用いられている。「要書票子 手ガタヲカケ」（二16裏）

6 介詞

・所在

【在】在心留意（二1表）

【于】于心不樂（四8裏）

【於】郎君自有福分而得脱於俺何預（六2裏）*卷六のみ。

・起点

【從】從此以後（四1裏）

【自】自少穎悟（二8裏）

・方向

【對】對人費啄（四10裏）

【向】想必向後什麼東西都賤下來哩（四13裏）

【望】望風而至 (二 19 裏)

【在】若伏事主公有餘力則不管怎的便在空中地裡跳出來 (四 2 裏)

・到達

【到】到一個去處去 (四 19 裏)

・經由

【在】在街上走過 (四 19 表)

・目的

【爲】小弟這兩日爲沒要緊事奔走 (四 5 表)

【把】你有丸藥把我喫些個 (四 12 裏)

【替】我實替你出力 (四 16 裏)

【與 (与)】与主人照管些厨事 (四 9 表)

・代替

【替】你替我多多致意他 (四 11 表)

・処置

【把】把平生本事使出來 (四 8 表)

【以】乃以天神托夢之事及光搦作怪之事——詳細道知 (六 4 表) *卷六のみ。

・材料・用具・手段

【以】以恩報讐 (二 11 裏)

【將】孫八連忙扶起又将好言安慰 (六 3 裏) *卷六のみ。

・依拠

【信】信口說套話 (三 3 表)

・共同

【和】我要和你化拳 (三 9 表)

【同】我要同你去 (三 1 表)

【與 (与)】与人撲交 (四 17 裏)

【及】以天神托夢之事及光搦作怪之事——詳細道知 (六 4 表) *卷六のみ。

・比較

【似】好似他多 (二 17 裏)

【如】強如他多 (二 17 裏)

【比】比往年有所不同 (四 1 裏) 比如今還是安樂 (四 18 裏)

【與 (与)】与旧日大差懸絕 (四 2 表) 與往年更冷 (四 13 表)

【於】青出於藍 (二 8 裏)

・強調

【連】休說英雄連農包也做不來 (四 15 裏)

7 副詞

・接尾辞

然 生 來 是 且 爾 乎 兒 得 個 裡

「生」「兒」「個」の用例を次に挙げる。

【好生】好生熱（一23表）

【偏生】偏生有椿緊要事情（四13表）

【様生】様生都有（二6裏）

【一塊生】一塊生住（二20表）

【假活兒】假活兒說（二20裏）

【真個】真個厭殺人了（四17表）

『唐話纂要』副詞一覽表 （ ）は巻六にのみ見られることを表す。

程度	度合	極 極是 最 太 忒 大 老 大 老 許 頗 慢 決 千 万 好 好 生 甚 是 多 多 多 十 分 異 樣 餘 外 稍 罕 隱 隱 少 略 纔 萬 一 (切)
	付加	更 還 漸 愈 看 看 (彌)
時間	過去	從來 原 原來 既 既已 曾 剛纔 適纔 方纔 纔次 (向者)
	現在	今 而今 如今 目下 正
	未來	後來 早晚 少停 近 (後)
	不定	時常 往往 且 暫且 權且 預 預先 疾然 忽 恰好 (連忙)
	不變	仍舊 仍然 依然 依旧 還 還是 尚
	重複	又 再 復 重新 從新 (再三)
	多次	屢次 屢屢 連 (屢)
	度合	快 慢 早 晚 (速)
範圍	单独	只 只管 只情 只顧 專 一味 一味裡 第 竟 唯獨 (惟) (止)
	個別	別 個個 各 各各
	相互	相 互相 遞相
	共同	一起 齊 一齊 一發 同 一塊生 (一同)
	統括	都 皆 共 共總 通共 也 亦 總是 俱 並 一例 盡 盡行 畢
情態	真確	真 真正 真個 當真 定 必 必定 必竟 必然 委實 正是 (誠)
	趨勢	自然
	歸着	果然 遂 (果)
	決定	索心 索然 寧可 寧索
	発動	特 特地
	徼幸	幸 幸希 何幸 僥倖 虧 多虧 落得
	相反	偏生 却 倒 倒是 倒得 反
	僅差	幾乎 庶幾 差不多 差不多些 大概 將就 將就些 大半 (幾)
	推測	只怕 恐 恐怕 恐其 或 或者
否定	不 不必 何必 沒 沒有 無 無所 莫非 未 未曾 未嘗 未有 休 勿	
疑問反詰	難道 寧 豈 豈可 安 安敢 遮莫 焉能	
指示	這般 恁 恁地 恁的 怎 怎麼 怎麼樣 怎生	

* 「千万」について

「千万」は、卷一「二字話」に単独で収録され、「タノム」という訳が付けられている。また、卷二に「四字話」として「千万出力」が収録され、「タノムニセイライダセ」と訳され、副詞として活用されている。また、卷六でも、「千萬留心」とある。ところが、卷一「三字話」には「千万你」とあり、「汝ヲタノム」と訳されている。

* 「真個」について

「真個」は、卷四「長短話」に「真個慚愧了 実ニハツカシフ候フ」「真個厭殺人了 実ニアキハテ候フ」「真個放蕩不過 ハフラツニシテ」「真個好一頭親事 好キ親事ナリ」とあり、副詞として用いられている。「真個花期 チヤウドサカリ」は「真個」に修飾されるべき述語が省略されていると考えられる。また、「先生你是真個當世英雄 先生ハ誠ニ當世ノ英雄ナリ」のように、「誠ニ」と副詞的に訳されてはいるが、名詞を修飾する位置で用いられている例もある。

* 「多」と「曾」を組み合わせた「多曾」がある。

8 連詞

・並列

【又～又～】先生你是真個當世英雄又不肯足奉人又不肯打關節只守天命 (四 15 表)

【越～越～】越看越好 (二 19 裏)

【愈～愈～】愈味愈妙 (二 19 裏)

・累加

【況】況今流落在此間 (四 10 裏)

【況且】況且昨今是更覺耐煩些 (四 19 裏)

【而況】而況我專門事体休說你請我喜酒我鈔你兩席勞酒也要出力 (四 12 表)

【且】你家斜對面某人的女兒賢惠且絕色 (四 9 表)

【休說】休說英雄連農包也做不來 (四 15 裏)

・選択

【或～或～】如今人或大或小皆要讀書 (四 2 表)

【或者～或者～】聽說海面上的船隻或者打壞的或者漂流的也有之 (四 13 裏)

【或～若～】或還若邇畢來相從 (四 10 裏)

【若～若～】若男若女或老或少 (六 1 裏) *卷六のみ。

【不然】你若肯受托我便說出來不然不敢輕易開口 (四 11 裏)

・承接

【於是乎】於是乎彰 (二 20 裏)

【而】走船的人原來重利輕命之徒而未必免此般災禍 (四 14 表)

【然則】故感得天神差恩人來救我無疑然則是天神是恩人恩人乃天神也（六3表）

【以】無錢而衣食有病以掙扎（四11表）

・反転

【而】不求好名而好名遍聞不招徒弟而徒弟日加（四10裏）

【但】今我僥倖爲識荊大慰平生想渴今後必當通相切磋但我機線之材恐不足爲對耳（四4表）

【不意】不意遇了暴風送掉了性命者委實沒造化（四14裏）

・因果

【因】我的長子既已大了因要討一個好媳婦與他完聚（四9表）

【因～而～】去歲長兄因有貴恙而不來（四8裏）

【因～所以～】只因力不足能及所以沒奈何（四15裏）

【因～故此～】因聞說你會患了時病而臥了幾日未嘗全愈故此今日特來問你（四19裏）

【因爲】夜來酒喫得太多因爲今朝覺得有些不耐煩你有丸藥把我喫些個（四12裏）

【所以】今日我每寂寞無聊所以約會三五知心灌得大醉（四5裏）

【因此】所約事我十分用心因此光景也好（四7表）

【故此】小弟近來俗事紛然竟無半點閑空故此不來奉望（四7裏）

・讓歩

【雖】我雖爲學爭奈性愚鹵至今未有所曉中心只是不快（四6裏）

* 「心中」という意味で「中心」という語が用いられている。

【雖然】今冬與往年更冷而風也大雖然如此倒少有火災（四13表）

【雖則】那二十來歲的人尚自與小孩兒做一般頑皮真個放蕩不過雖則如此倒得秉性朴實（四18裏）

* 「因爲」について

上記以外に、もう一例ある。

連日大雨路上稀爛極難奔走因爲這兩日不敢來問安未審興居無恙否（四17表）

どちらも、「因爲」は「因リテ爲メニ」と書き下され、「因爲」の前の部分が原因、理由に当たり、後の部分が結果に当たる。『唐話纂要』では、上に示したように「因」が原因や理由を導く役割を果たしている。

・推論

【既】賢弟你既有事慌忙則倒是恭喜（四20表）

【既然】足下既然依從必須収金子（六8裏）

・假定

【如】明日如有貴閑肯來舍下頑耍麼（四5表）

【如～則～】你如應允出力与我成就了這件事則我特請你一席喜酒便了（四11裏）

【若】你若沒事必須過來替我做半東 (四8表)

【若~則~】若把今之後生認爲老成而謂前程有大福則天下誰不老成誰無大福 (四18表)

【若要】令郎若要娶他果然金玉夫妻更兼門當戶對真個好一頭親事了 (四10表)

【若~的時節】若沒事的時節我要留你一日喫酒頑耍 (四7表)

【免】你免有貴暇一發同走耍子若何 (四12裏)

・反轉

【縱】縱有極艱極難的事体也要同心協力胡乱相謀 (四12表)

・限定

【只要】只要先到貴厨与我主公照管些厨事便了 (四9表)

【除】除要過來用一盃寡酒 (四8裏)

【除非】除非如此 (二10表)

・不限定

【不論】不論好歹 (二2表)

【不管】若伏事主公有餘力則不管怎的便在空中地裡跳出來或走馬射弓或刺鎗使棒直恁地演習武藝而打熬氣力 (四2裏)

9 助詞

・等類

【等】偏愛吹彈歌舞等沒要緊的事体 (四3表)

此等兵器乃武夫性命也 (六18表) *卷六のみ。

【們】還有那一種豪富人家子弟們便請處官在家裡見教所以近日來那寒酸秀才們也掙得衣飯受用 (四2表)

・類似

【一般】像個中老的人一般 (四17裏)

・接統

(副詞的修飾語)

【的】我今日可可的有件事 (四7表)

【地】唉吟吟地 (二12裏)

【個】真個慚愧了 (四6裏)

(形容詞的修飾語)

【的】罪重的下牢 (三6裏) 罪輕的寄本街 (三6裏)

【的+名詞】我家的經紀人 (三4裏)

【個】先生你是真個當世英雄 (四15表)

【之】朝野俱樂而重值堯舜之時也 (四1表)

- ・ 假定

【時】 兄長肯帶我去時我也情愿奉陪（四6表）

【の時節】 若没事の時節我要留你一日喫酒頑耍（四7表）

- ・ 句末助詞 了 哩 罷 罷了 便了 則個 哉 也 矣 焉 耳 而已 麼 否
(乎) (耶) (夫) (已)

- ・ 準句末助詞 就是了 便好了 也好 不成

*卷六の句末助詞は、「也 矣 焉 乎 耶 夫 耳 而已 否」などの文語的なものに限られている。

10 疑問文

- ・ 是非疑問

【麼】 你認得他麼（三3表）

【不知～麼】 不知興居平安麼（四4表）

【疑問詞+麼】 你今日有什麼事故麼（四7表）

*卷三「五字話六字話」に、次の用例がある。

誰是主告人 誰ガカケクジノ者ノ（三6裏）

誰是被告人麼 誰ガウケクジノ者ノ（三6裏）

「麼」がある場合もない場合と同じ意味として解されている。

【否】 打双六耍子否（三9裏）

【未審～否】 未審興居無恙否（四17表）

- ・ 疑問詞

代詞及び副詞の項で、すでに紹介済みである。その他に、「如何」「如何」がある。

- ・ 反復疑問

【～不～】 看不看（一14裏）

11 補語を導くもの

【得】 賭錢輸得清光（三8表）

以上のように、『唐話纂要』に収められている言葉を品詞分類して提示してみた。「唐話」が果たしてどのような言葉なのか、まだ明らかではないという現状を考慮して、『唐話纂要』の全体像が見えてくるように心がけたつもりである。

一口で「唐話」とは言っても、いろいろなレベルがあると考えられる。『唐話纂要』一冊を見ても、後から付け足された巻六は文語的な言葉や表現が多く用いられている。さらに詳しく、両者の言葉を区別し、比較してゆく必要があるだろう。

いくつか気付いた点を、*印を付して挙げた。それらについても、岡島冠山の名が冠せられた他の編

著書の言葉とも比較したうえで、考えてゆきたい。

参考文献

- 石崎又造 1940 『近世日本に於ける支那俗語文学史』 東京 清水弘文堂書房
太田辰夫 1958 『中国語歴史文法』 東京 江南書院 (朋友書院影印 1981 を使用)
太田辰夫 1988 『中国語史通考』 東京 白帝社